

先行的に取組む広域的な新規・拡充事業について

大阪市内での住民サービスについて、府市間の連携は必ずしも十分ではなかった

→大阪にふさわしい大都市制度を目指し、知事・市長共同歩調のもと、以下のとおり取り組む

- ① 先行的に取組みを始めた広域的な新規・拡充事業（先行的広域事業）の大阪府の関与
- ② 差等補助（差等補助的な事業を含む）の解消
- ③ 宝くじ収益金の府市配分割合の見直し

①先行的広域事業

- ・先行的取組みの象徴となる事業
- ・インフラ基盤整備
- ・集客観光 など

②差等補助及び差等補助的な事業

府が任意に行っている事業で、その対象から政令市を除外するもの

③大阪府と大阪市内の宝くじ収益金配分割合の見直し

大阪府と大阪市の広域的事業にかかる役割分担の見直しに伴い、財源移譲を図るため、宝くじの収益金を大阪府と大阪市の販売実績と夜間人口のシェアに応じて配分

※大阪府・大阪市内の配分方法については、定期的に見直すとともに相当の理由がある場合は随時見直しを行う

先行的に取り組む広域的な新規・拡充事業について

これまで、大阪市域内での住民サービスについて、府市間の連携が必ずしも十分でなかったことを踏まえ、大阪にふさわしい大都市制度をめざし、知事・市長共同歩調のもと、先行的に取り組みを始めた広域的な新規・拡充事業（以下、「先行的広域事業」（別紙 1）という。）については、府市統合までの間、以下の考え方で整理する。また、差等補助（差等補助的な事業を含む）についても解消を確認する。なお、先行的広域事業に係る府の関与に伴い、宝くじ収益金の府市配分割合の見直し（別紙 2）を行う。

- 府市それぞれが法令等に基づく権限と責任に応じて関与することを基本に、府は事業が市域外に及ぼす効果や受益の程度も勘案し、広域行政体として一定の財源負担をする。

平成 年 月 日

大阪府知事 松井 一郎

大阪市長 橋下 徹

先行的に取り組む広域的な新規・拡充事業について

大阪にふさわしい大都市制度を目指すなか、知事・市長の共同歩調のもと、先行的取り組みを始めた広域的な新規・拡充事業は、府が広域行政体として責任を持って関与する

同時に、宝くじ収益金を念頭においた差等補助（差等補助的な事業を含む）については完全解消を徹底する

◆広域的な新規・拡充事業の考え方

<事業例>

▣先行的取り組みの象徴となる事業（特に重点的関与が必要）

- ・ うめきた2期開発（区画整理、緑化、新駅設置）
- ・ 新しい美術館の整備
- ・ クルーズ客船母港化

▣インフラ基盤整備

- ・ 広域的高速道路
- ・ 鉄道（なにわ筋線、リニア関連、I R 関連）

▣集客観光等

- ・ 大阪城・天王寺公園・難波宮跡
- ・ 近現代史を学ぶ施設

◆差等補助的な事業

大阪市及び堺市の区域を除く府の区域を対象として府が事業を行っているもの

- ・ 重症心身障がい者介護手当の支給（ ※調整中 ）
- ・ 鉄道駅舎エレベーター等設置補助
- ・ 鉄道駅舎可動式ホーム柵等設置補助

など

宝くじ収益金の配分見直しについて

宝くじ収益金については、先行的広域事業に係る府の関与に伴い、下記の新たな方法により配分することとする

1. 現行の配分率

○配分方法：（販売実績割＋昼間人口割）×1/2

	大阪府	大阪市
配分率 (H25 収益金額)	43% (125 億)	50% (143 億)

※販売実績額は H15、昼間人口は H12 国勢調査による
他に堺市に 7% (20 億) を配分

2. 新たな配分率

○配分方法：（販売実績割＋夜間人口割）×1/2

	大阪府	大阪市
配分率	50% (+20 億)	43% (▲20 億)

※販売実績額は H23～H25 の平均、夜間人口は H22 国勢調査による
他に堺市に 7% (増減なし) を配分

- ・新たな配分方法については、国勢調査が行われる 5 年に 1 回見直しを行うこととする
- ・なお、府市が相当の理由があると認める場合は、配分方法の見直しについて随時協議を行うことができるものとする

うめきた2期開発の推進に係る費用負担に関する覚書（案）

大阪府（以下、甲という）と大阪市（以下、乙という）は、うめきた2期開発を推進するため、その費用負担に関して、次のとおり覚書を締結する。

（相互協力）

1. 甲及び乙は、グランドデザイン・大阪に示された「うめきたと周辺のみどり化」等の早期実現を目指し、相互に協力し、うめきた2期開発の円滑かつ効率的な推進に取り組むものとし、今後必要な予算措置に努める。

（公園整備事業）

2. みどり化の実現に必要な公園整備に係る事業費（用地取得費及び整備費）の負担割合は、甲乙折半とすることを基本とする。

（土地区画整理事業）

3. 土地区画整理事業については、みどり化を実現するため、他の事業にはない制約のかかったものとなることから、全体事業費のうち保留地処分金を除く事業費の負担割合は、甲乙折半とすることを基本とする。

（新駅整備）

4. 新駅整備については、乙が鉄道地下化事業と一体的に事業推進を図るが、全体事業費のうち、鉄道事業者負担を除く事業費について、「なにわ筋線」具体化の際には、新駅が広域鉄道ネットワーク計画上の結節機能を有する点を踏まえ、甲が応分の費用負担をする。その負担割合については、「なにわ筋線」の具体化にあわせ、関係者で協議して定めるものとする。

（鉄道地下化事業）

5. 鉄道地下化事業は、道路交通の円滑化や地域分断の解消に資するなど地域のまちづくりの基盤となる事業であるため、全体事業費のうち、鉄道事業者負担を除く事業費について、乙の費用負担を基本とする。

(その他)

6. この覚書に定めのない事項又は疑義を生じた場合については、甲乙協議して定めるものとする。

平成 年 月 日

甲 大阪府知事 松井 一郎

乙 大阪市長 橋下 徹

先行的に取組む広域的な新規・拡充事業について
【カウンターパート一覧】

リスト項目		カウンターパート	
		府	市
先行的取組みの象徴となる事業			
うめきた2期開発	区画整理	住宅まちづくり部 (都市空間創造室)	都市計画局 (企画振興部)
	緑化		
	新駅設置		
新しい美術館の整備		府民文化部 (府民文化総務課・都市魅力創造局)	経済戦略局 (文化部)
クルーズ客船母港化	ターミナル 整備	※窓口調整中	港湾局 (計画整備部)
	インフラ 整備		
インフラ基盤整備			
広域的高速道路		都市整備部 (交通道路室)	都市計画局 (計画部)
なにわ筋線		都市整備部 (交通道路室)	都市計画局 (計画部)
リニア関連		政策企画部 (戦略事業室)	都市計画局 (計画部)
IR関連	夢洲まちづくり構想	※窓口調整中	経済戦略局(立地推進部) 都市計画局(開発調整部) 港湾局(営業推進室、計画整備部)
	大阪立地 プロモーション		経済戦略局 (立地推進部)
集客観光等			
大阪城		府民文化部 (府民文化総務課・都市魅力創造局)	経済戦略局(観光部) 建設局(公園緑化部)
天王寺公園		府民文化部 (府民文化総務課・都市魅力創造局)	経済戦略局(観光部) 建設局(天王寺動物公園事務所)
難波宮跡		都市整備部 (公園課)	建設局 (公園緑化部)
近現代史を学ぶ施設		政策企画部 (企画室)	政策企画室 (企画部)
差等補助的な事業			
重症心身障がい者介護手当の支給		福祉部 (障がい福祉室地域生活支援課)	福祉局 (障がい者施策部)
鉄道駅舎エレベーター等設置補助		住宅まちづくり部 (建築指導室建築企画課)	福祉局 (障がい者施策部)
鉄道駅舎可動式ホーム柵設置補助		都市整備部 (交通道路室都市交通課)	都市計画局 (開発調整部)
別途			
大阪・光の饗宴事業		府民文化部 (都市魅力創造局魅力づくり推進課)	経済戦略局 (観光部)

先行的に取り組む広域的な新規・拡充事業について
【27予算(要求ベース)一覧】

(単位:百万円)

リスト項目			総事業費	27予算(要求ベース)				
				概要	府		市	
					歳出	税等	歳出	税等
先行的取組みの象徴となる事業								
1	うめきた2期開発	区画整理	26,200	測量、設計、調査	12.5	12.5	50	1.5
		緑化	未定	公園用地を確保	0	0	0	0
		新駅設置	15,000	設計	0	0	23	11.5
2	新しい美術館の整備		44,376	設計 (デザインビルド方式)	0	0	84	84
3	クルーズ客船母港化	ターミナル 整備	1,544	民間事業者の整備・運営 に対するニーズ調査	0	0	4	2
		インフラ 整備	531	設計・工事	0	0	97	41
府費2計上								
インフラ基盤整備								
4	広域的高速道路			—				
5	なにわ筋線			調査	5	2	5	5
6	リニア関連			調査	5	5	5	5
7	IR関連	未定	夢洲まちづくり構想	0	0	80	67	
			大阪立地プロモーション	2	2	0	0	
集客観光等								
8	大阪城		未定	工事	0	0	350	78
9	天王寺公園		未定	調査・工事	0	0	731	268
10	難波宮跡		未定	設計・用地取得	0	0	154	14
11	近現代史を学ぶ施設		未定	調査	3.5	3.5	3.5	3.5
差等補助的な事業								
12	重症心身障がい者介護手当の支給			手当の支給	0	0	109	109
13	鉄道駅舎エレベーター等設置補助			補助	0	0	26	26
14	鉄道駅舎可動式ホーム柵設置補助			補助	0	0	33	8

※計数網掛けは府市調整済み

別途

大阪光の饗宴事業	特別プログラム	南伸(イルミネーション) 府立中之島図書館映像 北伸(電源整備、イルミネーション)	115	※ 58	170	170
	光のルネサンス	光のプログラム	0	0	95	95
	御堂筋イルミネーション	イルミネーション	125	※ 63	0	0
	計		240	121	265	265

※府は、支出額の1/2について基金を充当

うめきた2期区域都市基盤整備

【事業概要】

うめきた2期区域を「みどり」を軸とした質の高いまちづくりを実現するため、都市基盤整備事業を推進し、我が国の国際競争力の強化等に資するまちを実現する。

【事業内訳】

(27年度予算 73百万円)

※府 12.5 百万円 市 60.5 百万円(国費含む)

○大阪駅北大深西地区土地区画整理事業

- ・ 測量、設計、調査 (50 百万円)

※府 12.5 百万円 市 37.5 百万円(国費含む)

○みどり化事業

- ・ 公園用地を確保 (0 百万円)

○新駅設置事業

- ・ 実施設計 (23 百万円)

新しい美術館の整備事業

【事業概要】

(総事業費 29,012 百万円)

中之島 4 丁目の市有地を活用し、新しい美術館を整備することにより、中之島を文化芸術の重点エリアとする「中之島ミュージアムアイランド構想」を推進する。

【事業内訳】

(27 年度予算 84 百万円)

○新しい美術館の整備事業

- ・ 基本設計業務 (82 百万円)
- ・ 基本設計者の選定業務等 (2 百万円)

(参考)

これまで市が実施した事業内容 (過去分合わせた全体事業費 44,376 百万円)

- ・ 作品購入(※1) (15,346 百万円)
- ・ 用地取得(12,900 m²簿価 ※2) (16,089 百万円)
- ・ 検討調査(H25、H26) (18 百万円)

※1 所蔵作品 4,758 点 評価額 25,736 百万円(平成 25 年度末時点)

うち購入:1,016 点 15,346 百万円(モディリアーニ、ダリ、ステラなど)

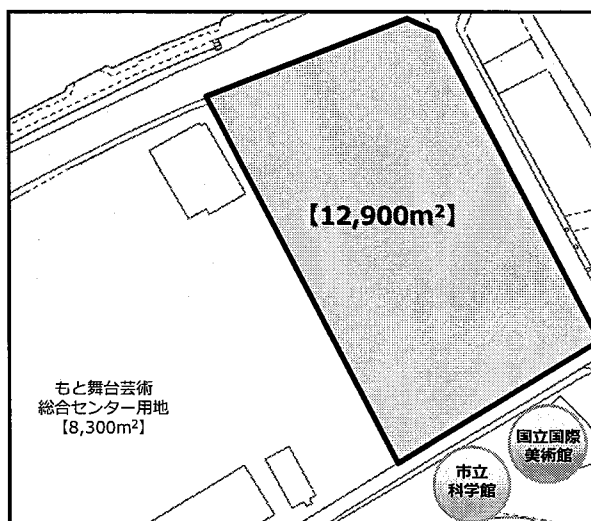
うち寄贈:3,742 点 10,390 百万円(佐伯祐三、吉原治良、ローランサンなど)

※2 今後、一般会計が土地先行取得事業会計から繰戻す

今後の建設工事

(12,923 百万円)

<新美術館建設予定地>



○ 1. 新美術館のコンセプト

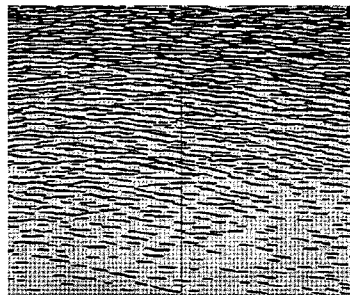
- 佐伯祐三や吉原治良に代表される大阪が育んだ作家の作品を中心とした第一級のコレクションを活かし、国内トップクラスのミュージアムをめざす。
- 「大阪と世界の近現代美術」をテーマとしたミュージアムとして、市立美術館や東洋陶磁美術館にはない、新たな魅力を創造する。
- 歴史的にも文化的にも豊かな蓄積をもつ中之島を拠点として、文化の振興や都市の魅力向上に貢献する。
- 民間の知恵を最大限活用しながら、顧客目線を重視し利用者サービスに優れたミュージアムとする。



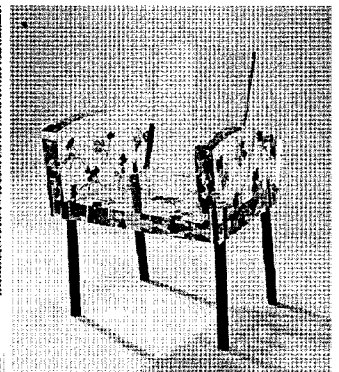
アメデオ・モディリアーニ
《髪をほどいた横たわる裸婦》1917年



佐伯祐三 《郵便配達夫》1928年



福田平八郎 《遅》1932年



倉俣史朗 《ミス・ブランヂ》1989年

1

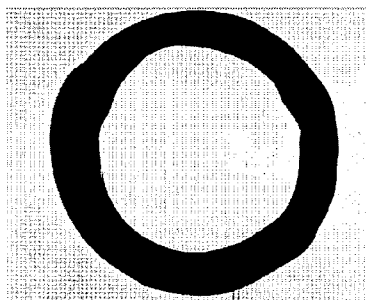
【コレクションの概要】

○19世紀後半から今日に至る、日本と海外の代表的な美術作品：約4,700点（寄託品は除く）

- ・国内最大かつ最高水準の佐伯祐三作品とすぐれた近代絵画
- ・フランク・ステラやマーク・ロスコなど戦後美術の名品
- ・具体美術協会のリーダーである吉原治良作品約800点
- ・ウィーン工房などのデザイン作品約200点
- ・1万8千点を数えるサントリーポスターコレクション（寄託品）

※具体美術協会

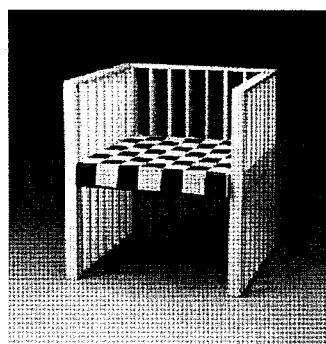
1954年に結成され、大阪を中心に活動した前衛美術集団。吉原治良に率いられ、「人のまねをするな」をモットーに新たな時代の造形を国際的に発信。新美術館は活動拠点であった中之島の「グタイピナコテカ」近くに整備される予定。



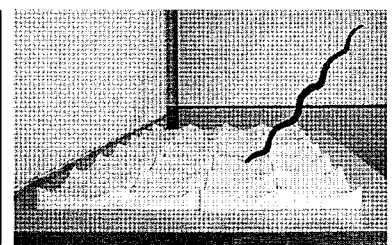
吉原治良 《作品》1965年



ウンベルト・ボッチョーニ 《街路の力》1911年



コロマン・モーザー 《肘掛け椅子》1904年



ビーノ・バスカーリ 《海》1966年

2

【参考】施設整備の概要（案）

項目		備考
【施設整備費】	121億円	設計・監理費／工事費／備品購入費
※26年12月現在 129億円		
項目		備考
【延床面積】	15,000m²	-
内 訳	コレクション展示室	2,200m ² 日本近代／西洋近代／デザイン／現代／テーマ展示 (うち500㎡は企画展示室としても利用可能)
	企画展示室	1,200m ² 大型の巡回展にも対応できる面積を確保 (1,200㎡もしくは1,700㎡での利用が可能)
	コミュニケーション	2,100m ² パッサージュ、講堂、ワークショップ室等の オープンエリア
	保存・研究	2,500m ² 収蔵庫、一時保管庫、調査研究室等
	管理・共用	7,000m ² 管理部分（事務室、機械室、倉庫等） 共用部分（展示ホール、廊下、階段等）

（駐車場及びサービス施設は含まず）

※今後、新美術館の活動内容について具体的な検討を進めるとともに、別途検討を進めている市立美術館の改修計画や工事費の変動等も踏まえながら、施設整備の概要を決定します。

○ 4. 新美術館の運営方針

○地方独立行政法人のもとで柔軟な運営

- ・博物館施設は地方独立行政法人のもとで機動的な運営をめざす。
- ・新美術館についても地方独立行政法人のもとで運営し、コンテンツの充実やサービスの向上、柔軟な経営を行う。

○市立美術館や東洋陶磁美術館との一体的な経営

- ・市立美術館や東洋陶磁美術館とは企画、人員、運営面等で一体的な経営を行う。

○国立国際美術館や市立科学館との連携

- ・国立国際美術館や市立科学館と連携して“ミュージアムトライアングル”を形成し、中之島の文化芸術エリアとしてのブランド化に貢献する。

○国内外の美術館との連携

- ・新美術館のコレクションは、これまで、延べ2,500点以上の作品が700カ所以上の美術館（海外の美術館42カ所を含む）に貸し出されている。
こういった取組みにより形成してきたネットワークを最大限活用し、魅力ある企画展を実施する。

○サービスの充実

- 夜間開館の実施／ボランティアの活用やメンバーシップ制度の導入／観光施策との連携／周辺施設や企業との連携／寄付などによる新たな収入確保 等

○ 5. 今後のスケジュールと開館までの取組み

(1) 今後のスケジュール

◎新美術館は、大阪の新たな観光拠点として、**2020年度（H32）までの開館**をめざす。

「大阪の観光戦略」において、2020年までを計画期間として、来阪外国人旅行者数を650万人とする目標を掲げている。また、2020年に東京オリンピックの開催が予定されている。

(2) 開館までの取組み

○整備の進捗状況のお知らせ

ホームページに最新情報を掲載し、プレスリリースを積極的に実施。

○新美術館の名称

新美術館にふさわしい名称やロゴ・シンボルマークを検討。

○コレクション展示の開催

コレクション展示を市内で定期的を開催するほか、国内の美術館においてコレクションの巡回展示を実施。

○コレクションの研究と発信

コレクションの調査研究を進め、その成果を発信するとともに、アーカイブの構築準備に取り組む。

○普及啓発活動の実施

ワークショップやフォーラムを通じ、新美術館の活動を市民とともに創る。

○大学や周辺企業との事業連携

コレクションの調査研究などにおいて、開館前から大学などの研究機関や周辺企業と連携。

○寄付等の募集

新美術館の整備には市民の理解と協力が必要であり、寄付を広く呼びかけ、市民の熱意に支えられた美術館をめざす。

クルーズ客船母港化：天保山客船ターミナル整備

【事業概要】 (総事業費 1,544 百万円)

クルーズ客船の母港化による内外集客力を軸に、新たなウォーターフロントのまちづくりに挑戦し、世界にアピールできる集客拠点をめざす。

【事業内訳】 (27 年度予算 4 百万円)

- ・ 民間事業者の整備・運営に対するニーズ調査 (4 百万円)

(参考)

岸壁機能等整備 (総事業費 531 百万円)

超大型客船の入港に最低限必要な岸壁機能である係船柱及び防舷材の整備を実施する

岸壁機能強化(係船柱・防舷材改良)、ロータリー改良 等

うち 27 年度市予算 97 百万円

IR関連：統合型リゾート(IR)を契機とした夢洲まちづくり構想

【事業概要】

統合型リゾート(IR)を契機とした夢洲における新たな観光拠点の形成の必要性や全体のまちづくり方針や土地利用及びそれらに基づく計画フレームから交通計画を作成し、これに対応した鉄道や道路などのインフラの整備計画(構想)を作成するための各種調査を実施。

【事業内訳】

(27 年度予算 80百万円)

○夢洲まちづくり構想検討

・夢洲土地利用関連検討調査 (41百万円)

・臨海部交通アクセス検討調査(鉄道・道路(臨海部)) (20百万円)

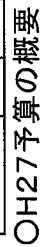
・臨海部交通アクセス検討調査(道路(夢洲域内)) (8百万円)

・夢洲埋立検討調査 (7百万円)

○海外事例調査(IR概要など)等 (4百万円)

統合型リゾート(IR)を契機とした夢洲まちづくり構想 平成27年度予算(案)

- # ○スケジュール(案)



事項	概要	金額	担当
夢洲土地利用関連検討調査ほか	観光拠点の形成など新たな機能を盛り込んだ夢洲全体のまちづくり方針や土地利用等(導入機能・規模・ゾーニングなど)の作成 「提案内容の事業分析」、「需要・波及効果」等の実施	41百万円	経済戦略局
	海外事例調査、国への要望・ヒアリング費用ほか	4百万円	
臨海部交通アクセス検討調査 (鉄道・道路(臨海部))	【交通計画】 観光拠点の形成など新たな機能を盛り込んだ夢洲全体のまちづくり方針や土地利用等に基づく計画フレームから交通計画を作成 【鉄道】 「鉄道の交通需要」、「事業実現性(収支)」及び「複数案の比較検討」の実施 【道路】 現況交通量の把握、新たに発生する自動車交通の需要予測、臨海部及びその周辺の道路交通への影響検討等の実施	20百万円	都市計画局 港湾局
臨海部交通アクセス検討調査 (道路(夢洲域内))	夢洲域内の影響検討(道路断面・交差点)・道路配置検討等の実施	8百万円	港湾局
夢洲埋立検討調査	工法検討(安定性照査等)の実施	7百万円	
合計		80百万円	

大阪城エリア観光拠点化事業

【事業概要】

世界的観光拠点化に向け魅力創出を図るため、歴史・文化的魅力を活かした豊臣期石垣公開事業を実施し、老朽化施設を集中的に改修するなど、快適性・利便性の一層の向上を図る。

【事業内訳】

(27 年度予算 350 百万円)

○観光拠点化事業

- ・ 大阪城の資源を活用した歴史文化体感事業(豊臣期石垣公開事業) (159 百万円)
- ・ 大阪城公園内特設案内所における観光案内業務 (2 百万円)
- ・ トイレ美装化 (89 百万円)
- ・ 重要文化財建造物修復 (100 百万円)

豊臣期石垣公開事業について

○事業スキーム

- ・事業費の大部分を占める施設建設費の財源は、国庫補助金及び寄附金を充当
- ・市費は遺構調査の2分の1のみに充当（91百万円）

（事業費の概要）

- ・総事業費 1,224百万円
（国庫補助金:551百万円 寄附金:582百万円 市費:91百万円）
- ・今後必要な市費 44百万円

（事業費内訳）

（単位：百万円）

事業内容	事業費	財 源			差引 市費
		国庫 支出金	起債	寄附	
豊臣期石垣公開事業	1,224	551	0	582	91
H25～26年度 事業費	129	47	0	35	47
・施設設計	25	8	0	17	0
・遺構調査	86	39	0	0	47
・寄附関連事業	18	0	0	18	0
H27年度 事業費	159	63	0	53	43
・施設設計	79	33	0	46	0
・遺構調査	74	30	0	1	43
・寄附関連事業	6	0	0	6	0
今後必要となる事業費	936	441	0	494	1
・施設設計および工事費	680	326	0	354	0
・遺構調査	231	115	0	115	1
・寄附関連事業	25	0	0	25	0

27 予算 159百万円
(26 予算 80百万円)

金募の夢にわたる大問

豊臣石垣公開事業について広く市民等からの賛同を得るとともに、事業財源に充当するため、寄附募集を実施

【金目標額】

5億円

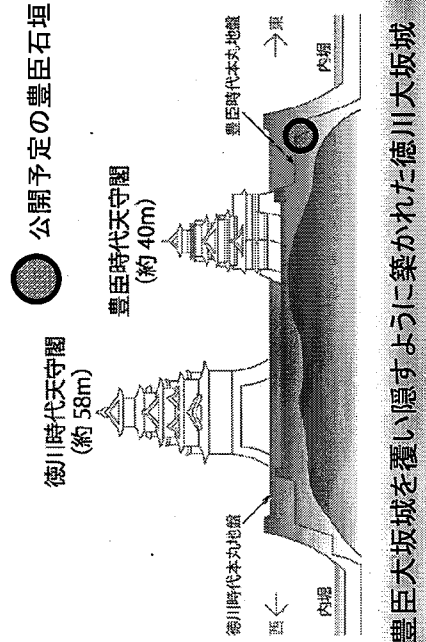
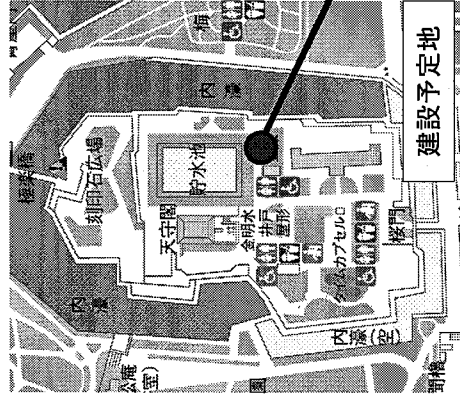
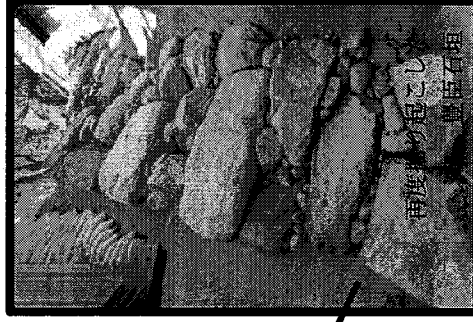
【募金期間】

平成25年4月1日

～平成27年3月31日

【募金額】(平成26年11月末現在)

約1億1700万円



豊臣大坂城を覆い隠すように築かれた徳川大坂城



石垣殿示木一儿

大阪城 豊臣石垣公開施設 完成予想図

天王寺動物公園の魅力向上事業

【事業概要】

天王寺動物園を大都市大阪にふさわしい魅力あふれる動物園とする徹底した改革を行い、あわせて動物園を核とした天王寺・阿倍野エリアの魅力向上を図る。

【事業内訳】

(27 年度予算 731 百万円)

○動物園の魅力向上

- ・ 民間導入に関する検討調査 (6百万円)
- ・ 天王寺動物園基本計画策定 (38 百万円)
- ・ トイレの改修・美装化 (36 百万円)
- ・ 施設の改修・美装化 (33 百万円)
- ・ ナイト・ズーの実施 (50 百万円)
- ・ ふれあい広場の整備 (18 百万円)
- ・ コレクション強化の取組 (12 百万円)
- ・ 獣舎先行整備 (55 百万円)
- ・ CS 向上の取組み (4 百万円)
- ・ スタッフユニフォームの作成 (7 百万円)

○公園(エントランス等)

- ・ 茶臼山の整備 (150 百万円)

○100 周年に向けた取組み

- ・ エントランスエリアのトイレの改修・美装化 (24 百万円)
- ・ 動物園連絡ゲート整備、案内サイン充実、広場等整備 等 (291 百万円)

○エリアの魅力向上

- ・ エリアプロモーション事業 (7百万円)

難波宮跡公園整備

【事業概要】

(総事業費 1,086 百万円)

難波宮跡公園において、NHK跡地の一部及びもと農林会館用地の整備を行い、市民に快適で歴史体験のできる公園を提供することで、大阪城・森之宮地区の活性化に寄与する。

【事業内訳】

(27 年度予算 154 百万円)

- ・ 実施設計 (6 百万円)
- ・ 用地取得(もと農林会館用地) (146 百万円)
- ・ 南部ブロック整備のあり方の検討について (2 百万円)

(参考)

北部ブロックのNHK跡地の一部及び農林会館用地の公園整備

- ・ 公園整備 (343 百万円)
- ・ 用地取得(もと農林会館用地) (743 百万円)

※NHK跡地は、本市の用地と交換(別途、清算金を本市 38 億円負担)

今後検討が必要

- ・ 北部ブロックの旧郵政公社跡地の購入及び公園整備
- ・ 南部ブロックのあり方検討

※用地取得済み(13,500 百万円)

難波宮跡公園の整備計画等について

■ 現状

＜西部ブロック（市立歴史博物館南側）＞ 約 1.2ha

- ・平成 13 年度 開設

＜南部ブロック（中央大通り南側）＞ 約 7.7ha

- ・昭和 29 年～ 発掘調査 元市立大学 山根徳太郎博士が発掘調査を主導
- ・昭和 39 年度～ 大極殿跡を中心としたエリアを史跡指定
- ・昭和 46～55 年度 史跡整備事業（大極殿の基壇の復原等）
- ・現在 史跡として開放

＜北部ブロック（中央大通り北側）＞ 約 2.3ha

- ・平成 13 年度 NHK 跡地（1.37ha）を土地交換で取得
- ・平成 26 年度 農林会館用地（0.18ha）取得予定
- ・旧郵政公社用地（0.7ha）未取得

■ 整備計画について

＜全体＞

- ・平成 10 年度 難波宮跡公園基本計画策定（基本構想図）
- ・平成 26 年度 難波宮跡公園基本計画の見直し

周辺環境や上位計画の変化を踏まえ、都心における歴史公園整備のあり方のモデルとして、公園（緑のオープンスペース）と史跡との新たな融合を目指した整備を行う

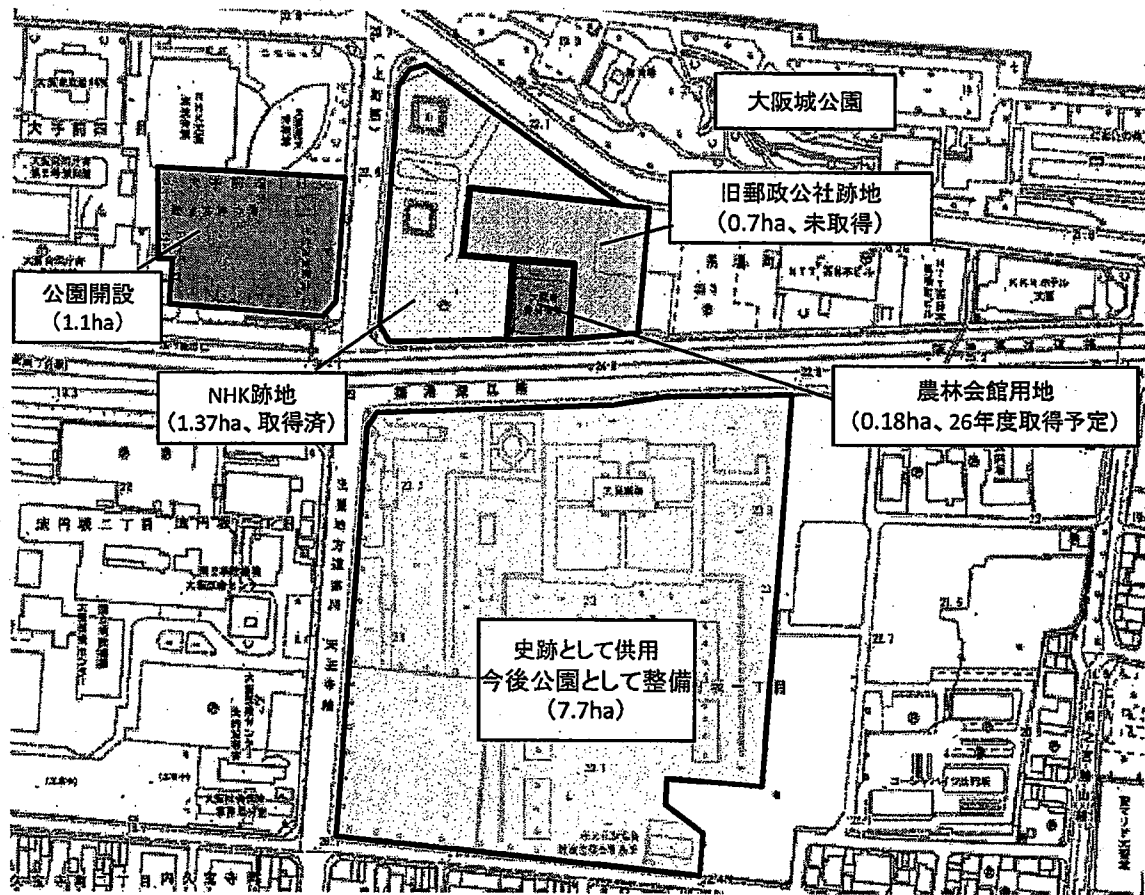
＜南部ブロック＞

- ・平成 26 年度 北部ブロックの見直しに伴い、建物復元を含めた史跡を活用した公園整備の事例調査を行い、南部ブロックの整備の方向性について検討
- ・平成 27 年度～ 南部ブロックの整備のあり方について調査・検討

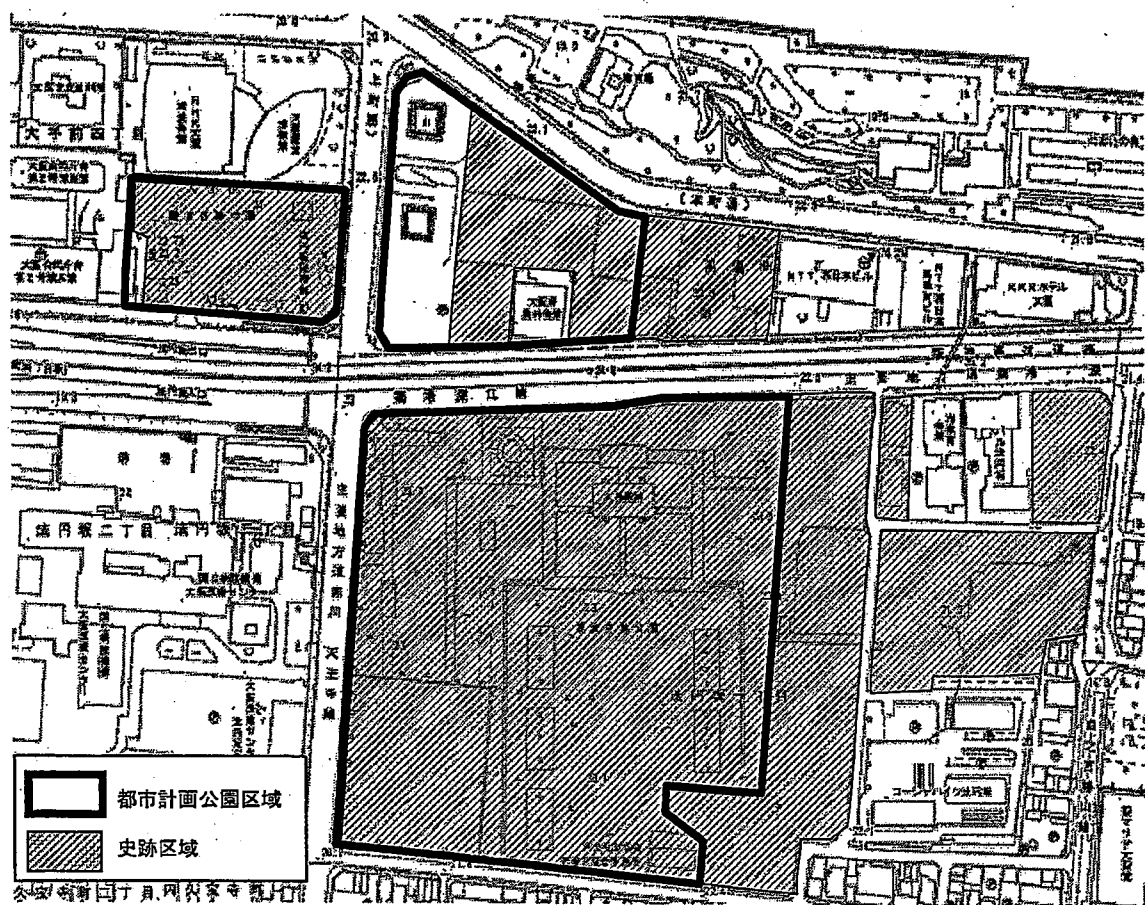
【建物復元における課題等】

- ・前期と後期のどちらの史跡を復原するか。史跡の価値は前期の方が高いが、前期においては学術的な研究が進んでいないため、現時点では復元が困難。
- ・復元にあたっては文化庁の許可が必要であり、それらを含めて、調査・検討・設計・整備に要する期間と費用が膨大
例）平城宮跡歴史公園 大極殿正殿復元事業
調査・検討・設計・工事：約 17 年
- ・建物を活用した文化的なソフト事業を実施し、利用者の関心を維持し、集客を図ることが必要。
- ・首里城や平城宮跡の大極殿正殿等は、国家プロジェクトで建物復元を実施

○現況図



○都市計画公園・史跡区域図



近現代史を学ぶ施設構想関係事業

【事業概要】

グローバル化が進む現代社会において、自国や自国を取り巻く諸外国の歴史を学ぶ機会と場所の提供を目的とした施設の設置に向けた取り組みを進める。

【事業内訳】

(27 年度予算 市 3.5 百万円)

府 3.5 百万円)

- ・ 施設構想策定に向けた調査・検討 (7百万円)

重症心身障がい者介護手当の支給

【事業概要】

(27 年度予算 109 百万円)

- ・ 身体障がい者手帳(1・2級)及び療育手帳(A)の両所持者を介護する者に対し、負担軽減のため介護手当を支給
- ・ 府は政令市の市民を支給対象外としている

鉄道駅舎エレベーター設置補助

【事業概要】

(27 年度予算 26 百万円)

- ・ 鉄道事業者※への補助
- ・ 府は大阪市・堺市域内及び大阪市営地下鉄駅舎を対象外としている
- ・ 府負担分は市負担となっている ⇒ 府が負担すべき額 :13 百万円

※ 1 日あたりの平均乗降者数が 3,000 人以上の市域内駅舎

鉄道駅舎可動式ホーム柵設置補助

【事業概要】

(27 年度予算 33 百万円)

- ・ 鉄道事業者※への補助
- ・ 府は大阪市・堺市域内を対象外としている
- ・ 府負担分は鉄道事業者負担となっている ⇒ 府が負担すべき額 :33 百万円

※ 1 日あたりの平均利用者数が 100,000 人以上の市域内駅舎

大阪・光の饗宴事業

【事業概要】

世界に類を見ない魅力的な光環境の創出に向け、コアとなるイルミネーションを実施するとともに、市内各エリアの民間主体の光プログラムとの一体的なプロモーションを図る。

【事業内訳】

(27 年度予算 651 百万円)

※府 245 百万円、市 265 百万円、民間 141 百万円

○大阪・光の饗宴

- ・ 特別プログラム(御堂筋イルミネーション南伸) (146 百万円)
- ・ 特別プログラム(府立中之島図書館映像プログラム) (30 百万円)
- ・ 特別プログラム(御堂筋イルミネーション北伸) (85 百万円)
- ・ 特別プログラム(御堂筋イルミネーション北伸・電源設置) (50 百万円)
- ・ OSAKA 光のルネサンス (215 百万円)
- ・ 御堂筋イルミネーション (125 百万円)

※府市の負担については別紙参照

平成27年度 大阪・光の饗宴事業について

(単位:百万円)

	項 目	内 容	計	大阪府(A)			大阪市(B)			
				府	市	民間	府	市	民間	
特 別 プ ロ グ ラ ム	①	御堂筋イルミネーション 南伸 (新橋～難波南口)	146	73	73	0	68	68	10	
	②	中之島図書館 映像プログラム	30	0	20	10	10	10	10	
				特別プログラムとして認めない						
		小 計(①+②)	176	73	93	10	78	78	20	
	③	御堂筋イルミネーション 北伸 (JR大阪駅南側～淀屋橋)	85	調整中【42.5仮置き】 (今後計上予定)			42.5	42.5	0	
既 存 プ ロ グ ラ ム	④	同上	50	0	49	1	0	49	1	
		特別プログラム計(①～④)	311	115	185	11	120	170	21	
	⑤	OSAKA光のルネサンス(市単独) (中之島公園一帯)	215	95			95			120
	⑥	御堂筋イルミネーション(府単独) (淀屋橋～新橋)	125	125	0		125	0		0
		総合計(①～⑥) ※()内は一般財源	651	240 (121)	280 (280)	131	245 (123)	265 (265)	141	

【大阪府 (A) の考え方】

- ・中之島図書館映像プログラムは、光のルネサンスがスタートしたH15から実施してきたルネサンス事業の一つのコンテンツであるため、既存事業として市単独で実施
- (H25・26は中之島図書館が改修工事中のため休止されていたもの)
- また、府基金条例の「御堂筋イルミネーション基金」の設置目的に合致しない。
- ・南伸設置撤去等にかかる経費は、府市折半による特別プログラムとして実施した事業であるため、H27も同じ考え方方で継続実施。

【大阪市 (B) の考え方】

- ・中之島図書館映像プログラムはシンボルイヤーに相応しいプログラムであり、また、府立の図書館を使っていることから、府市協調事業の特別プログラムとして位置づけられるべき事業 (事業費府市折半)。
- ・イルミネーション北伸及び南伸にかかる民間資金は、電源設置工事を市負担で行うことをふまえ、市負担分に充当。